二〇一二年四月二五日（参加者一三名）

門入れば百花繚乱園の春　満天
花虻の吾の目線でホバリング　〃
黄砂降る空へ飛簷の反りに反る　〃
笑ふ山へと七曲がり路線バス　〃
大傘の花のベンチに坐す至福　〃
一山を染むるばかりや躑躅燃ゆ　わかば
若楓日の斑の揺るる川明り　〃
谷川へなだれて楓若葉映ゆ　〃
蘭亭の古りし石文余花の影　〃
山峡の木の間隠れに山つつじ　よし子
翻りては日を返す風若葉　〃
芽ぐみゐる樹下はほどよき風の道　〃
うち仰ぐしだれ桜の大傘を　〃
蘭亭はこちらと園の道をしへ　ぽんこ
蘭亭の尖りし屋根に風光る　〃
カラフルな色を散らして糸とんぼ　〃
余念なき花壇の手入れ百千鳥　きづな
藍深く湛えし山湖春深し　〃
まず憩ふしだれ桜の大傘に　〃
日射すとき騎羅のさざ波春の川　つくし
吾が影に群るる色鯉花は葉に　〃
満目の森のみどりに風渡る　せいじ
山つつじ映しダム湖のふかみどり　〃
一水に沿ひて山路の春惜しむ　かれん
瑠璃深き湖囲む山つつじ　〃
群青の池へ裾引く躑躅山　菜々
木道に瑠璃きらめくは道をしへ　〃
笑むごとく千手ひろげし八重桜　泰三
小流れにあそぶがごとしみづすまし　〃
園に満つ呵々大笑のチューリップ　ひかり
花虻を屈伸運動して除ける　有香
もこもことふくるるごとく芽吹く森　はく子
真白なるガーデンチェアーに春惜しむ　〃
隠沼とりこにしたる山つつじ　〃
何故に後じさりせる道をしへ　〃
おにぎりを分け合ひ花下に憩ひけり　〃

定例句会みのる選

二〇一二年四月二五日（参加者一三名）